御門院百首和歌 十二月部

春

立春　子日　霞　鶯　若菜

殘雪　梅　柳　早蕨　樓

春雨　鶯　駒　歸鴈　呼子鳥　苗代

苔莖　杜若　藤花　歌冬　三月盡

夏

更衣　卯花　葵　郭公　菖蒲
早苗　照射　五月雨　盧橘　螢
蚊遣火　蓮　氷室　泉　荒和祓

堀川院百首和歌上

春

立春

春たちて梢にきえぬ白雪はまたきにさける花の咲とこそみれ　公實

氷ゐし志賀のからさき解てさゝ浪よする春風そ吹　匡房

三室山谷にや春の立ぬらん雪の下水岩たゝくなり　國信

よし野山峯にかゝれる雪消なは古年まて春や立覧　師頼

うちなひき春はきにけり山川の岩間の氷とくるらん　顯季

朝まきとゆく風の音にそ春はしらるゝ松の梢に　仲實

庭のおもに川流しるき諸人の立居は今年の世に初る　俊頼

□曦文庫
杉浦藏書

いまは昔八幡の一ぢの社の名のいとなくやすらはまほしくて
侍りしと明ゆく空はなほ千あまりはかりとぞ
よ野山にまかりてみくまと云ぬ社の
うちに宮ゐ云あり
清らかなる水の細き川解ゆけば水とりあやまちて
まこと社と大なる社のうちにあるもあり
大なる社のまへに鳥のいるゐと名付たる水あり

師時
顕仲
基後
清源
肥後
紀伊
河内

子日

祝ひて二葉の松を千世ふるまでの君が宿ゆゑ川ぞ流れる
まこと雲の上にうゑ世ともいはぬ小松ひく海の野へよ祝ひ

公實
迭房

松ひとしるしの松とぞ思ふ
祝ひそめ初めてのち
君が代の祝ひにいとゞ栄を松乃千歳の初春
西行
まこと雲の上にうゑ世ともいはぬ小松ひく海の野へよ祝ひ
祝ひそめ初めてのち
祝ひそめ初めてのち
祝ひのひとしるしの松を千歳の小松成
七日生れ二葉の松ひく人の門
野へよ出でて子の日の松ひく人の
野へよ出でて子の日の松ひく人の
野へよ出でて子の日の松ひく人の

國信
師教
顕季
仲實
後教
師時
顕仲
基後
隆源
肥後

野へ毎年のごとくに小松原をかきわけ　紀伊
君を世々の年経のへて稀の日にしるしの松のしるしを　河内

海辺

春霞たつ田子の浦波こゆるとて海人の釣舟　公實
わきもこが神垣ゆゑを春霞たつ田子の浦波　建房
おかべなる春の日ぬれぬ袖の山もとくる雪の　國信
神のこゑ有りて社の春霞ひくこゑ聞ゆ　師教
みぎはせに春霞たつ時よりは春の日ひく横野の　顕季
細川の春の氷とかすかに春霞たつ　仲實
浪たてば松の白雪とけぬ春霞たつ　俊頼

春霞あら波川のひびきにやかすみもこえぬ　師時
若くれなゐ春霞消なみ立ち山へよりあり春の日　顕仲
海ちかく春霞なびく山の松ゆゑ春の日ぬれ　基俊
あつさらす春のたつたの川に春霞　隆源
東風の本芳野の山に春霞たち　肥後
見渡せば春霞たつ山の春の日　紀伊
川の水の春の日ぬれ春霞　河内

霞

春霞たつ川の岩の苔も花の色ぬれ　公實
渓の春の日ぬれ春霞　建房

いかりもこゝろを置人なこゝろうん神の[illegible]　國信

散ぬるまゝに冬ふるもゝ山里の雪に[illegible]　師教

[illegible]　顯季

冬ごもりし古さと人[illegible]　仲實

数るゝ身と思へとも[illegible]　後教

[illegible]　師時

[illegible]　孫仲

[illegible]　基後

[illegible]　隆源

[illegible]　肥後

[illegible]　犯伊

山里に[illegible]　河内

若葉

[illegible]　公實

[illegible]　道房

[illegible]　國信

[illegible]　師教

[illegible]　孫季

[illegible]　仲實

[illegible]　後教

老せずとぞいふなる名にめでて流れ入る清水の底に澄む月
師時

踏まれぬるかくれの萩のさくらをばいとしと思ふ人ぞ知る
俊仲

春立つ日ぞ今宵七日にて三日の月のかたちなりける
基俊

さえわたるかさこそなれみかの原ふるしの森の二葉の松
隆源

月さもせばいかばかりかはかなかりしかの人の
肥後

踏まれぬる世をぞ思ひ知る野への草
紀伊

雪
河内

清のこ間初日くれの白雪を舞かかるこそ面白
公實

道あゆとしてとぬ物を山里にさ積りはてぬ年ぞ
廷房

三月ばかりに下もえにうつる草ばかりの間をあらはして雪
國信

くれぬ山の木の下陰より村さめゆく雪ぞ冬のなごりなりける
師教

山里は垣ぬきに積る白雪は草ばかりにぬ清やかに
俊季

三月ばかりにもこしぬ間の松のうへに深く雪
仲實

あらはれぬ三月ばかりに雪ぞ山の雪の村消
後教

彩雲の三月ばかりに雪ぞ山の雪の村消
師時

むらくもの大空の神雪ぞ山の雪の村消
俊仲

三月の下旬にてしれぬ垣ぬきに積る雪
基後

村消の雪もあはれなるかな春の日の雪
隆源

あらし風のまぎれにしぬく消やらぬ深山の雪
肥後

春さてハ日数へのまてし思ふこれ梅ハ清きを　紀伊
春ゆゑ屋さへ雪ハ花ぞ　河内

梅

梅うえを神なかりしくらゐ　公實
匂ひてわすれうまじ梅のそれを　廷房
ひらけまうかさ月梅をもろ人　國信
今しもハ梅さく宿ハ心せむ　師教
梅の花吹きてくる風ハ梅の神　歌女子
梅の花色をそ春ハ雪ハ　仲實
梅の花色をそ春ハ雪ハ　後教

梅の花匂ふ宿ハ人今わすれ　師時
春ハ月ゆ今梅の花匂　教仲
紅ハ春ハ雪ハ宿ハ梅の　基後
梅の枝をおりの神の匂ひ　逢源
なれ吹く風ハ梅ゆ　肥後
約ハ春の月ゆ梅の匂ひ　紀伊
梅ハ春の匂ひ宿ハ梅の　河内

柳

柳ゆ吹く風ハ春ハ　公實
春ハ柳のうら風ハ　廷房

春風にとうとう柳はかさをわすれたかもしれん　國信

さらりのさしもかくれぬ春ちかし風に浪うつまゝ柳の糸　師教

伝説の柳のいとは玉藻なす風うちなびけ春の雫　敬季

わさみなる玉藻に濁る水ぬるゝ柳のうらもてる　仲実

藻うれ糸うれ春あさみ柳風よなみ寄せ　後教

四方の山もみな緑なるひとしほやあらう海ん春柳　師時

緑なる河そひ柳春ふかくなるまゝ寄る浪　敬仲

春風に浪ゆらぎ柳水よりはえて　基俊

河そひの柳は春ゆらぐ浪うつ事は春の波　隆源

青柳の糸ふかみどりなるまゝ吹ふる風の匂ふかな　肥後

風吹ハ枝ごとにうるひく春柳の糸ふかみどり　紀伊

春柳のふかみどりいろ春毎に深みゆく　河内

早蕨

春日野の紫ハ色ふかくなるまゝ下萌わけて春の蕨　公實

郊山はまだ明ぬ春ふかみ色ふかくもえいでぬ蕨　廷房

春ふかくなるまゝ山ハ色ふかくもえいでぬ蕨　國信

武蔵野ハ雪ふかくなるまゝ春ふかくもえいでぬ蕨　師教

紫ハ塵ふかくなるまゝ春ふかくもえいでぬ蕨　敬季

燒野ハ春ふかくなるまゝ蕨ハ春ふかくもえいでぬ　仲実

春くれとなれば人もなれぬ蕨ハ野ハ春ふかくもえいでぬ　後教

夕暮道もしらす出れ共蕨ハ春の焼野のしるしなりけん　師時

春来てハ雪まもあらやぬるらん出し出へ出る下蕨かな　顕仲

見え山寺の陰のしるきの下ハひい道とも志ら下ハ　基俊

野へくれハ海さへかすむにいと蕨えわしらすに出へ出　隆源

飛火野の萌出かりさ蕨を焼とやくや人の摘らん　肥後

海にふる河ふ本よりくるらく萌出る野辺のさ蕨　紀伊

むさし野ハ花とハ相見よ紫の蕨ハ草の中に思ひ見　河内

桜

宿かして花も見さけれ桜も散をハよ花れ抑とやなる　公実

山桜さしよ知れくらハちる花毎よならすやわかるらむ　匡房

花さかり峯に八重ゐる白雲ハ咲る桜やちりまかふらん　国信

木の下の苔の緑も見えぬまて八重散ぬるや庭桜かな　師頼

桜花匂ふよは関すゑて越て思ふ風の通ひち絶めくさらに　顕季

花ちらす木の下風ハあやなくも染ぬ桜の衣きさら　仲実

桜花咲ぬる時ハみよし野の山のかひより浪そこえける　俊頼

春風に霞の衣ほころひていさゝへそ見ゆる八重桜かな　師時

高砂の林の里ハさへなくに尾上の桜咲と知られ　顕仲

春霞惜てちらゝ奥山の風さへ桜の色に思ひ　基俊

春毎に惜みし桜のなる迄と花の年ハ経ゆ時　隆源

山桜匂ふ盛ハ白雲やなかめし峯にまかふ人やまとはむ　肥後

あさひさすゆふハ春の明ぼのゝ山白ぬ横のたなびくかな　紀伊

余所にのミ見てややミなむ山桜花のゆかりもしらぬくもゐに　河内

春雨

野べハ毎に緑そふらむ桜の上より春雨ぞふりかくれて　公実

四方山に木のめ春雨ふりぬれハかそいろとや花のたのまん　匡房

おもわく(?)花さくらにも花や出そへて春雨のふりそめしより日の　国信

春雨の野べの緑をそめむとや明ぬよりふりくらすらむ　師頼

春雨にまたの日春雨ふりしかバ秋ハ涙をふらしけるかな　顕季

冬草に見えし春野ゝ梅たちばなの生の若菜に添ふる山　仲実

いつもくと思へハ分るすハ野をまかぬ若菜をさつる雨にぬれつゝ　俊頼

霞ハ花ハ多やうかりつる花のたもとにぬれしをり　師時

春雨ハそゝく梢ハ野も山も緑なりける緑成けり　顕仲

春雨のふりしより川田のをもとめていまのわさなぎ　基俊

をりゝハ傘をもさゝぬ身のはてに野べの緑を染るなりけり　隆源

ふりそむるいまハ春雨のふりすさむ花の錦ぬるゝなりけり　肥後

ゆかしきは春雨ふりぬる花の錦もほころびぬらん　紀伊

いかで春雨の降りぬるところせのなかに思へるかな　河内

春駒

沢のへにあさる春駒の若草をなつむ駒のあかずやみつゝ　公実

とりつなぐ人もなき身の春駒ハ野べの浅茅につけもかれ　匡房

國信　師教　鄭李　仲文　後教　師時　敬仲　奏後　澄源　肥後

紀伊　河内　丹波　近房　國信　師教　鄭李　仲文　後教

[illegible]　師時
[illegible]　彦仲
[illegible]　基俊
[illegible]　隆源
[illegible]　肥後
[illegible]　紀伊
[illegible]　河内

愛子多

[illegible]　公舞
[illegible]　廷房

[illegible]　國信
[illegible]　師教
[illegible]　彦李
[illegible]　仲實
[illegible]　俊恒
[illegible]　師時
[illegible]　彦仲
[illegible]　基俊
[illegible]　隆源
[illegible]　肥後

瀧しらぬ谷の瀧より山への(?)はるか呼子鳥たれ　紀伊
鳴とても誰をかはるはよふこ鳥やよひの空になくなく行らん　河内

苗代

苗代にせきくる水のなかれにもしつ心なきかはつ鳴なり　公実
苗代の山田のかゝしさきたちて流の末にかはつ鳴なり　匡房
鎌の男か苗代垣をわせわたし今そあせのほとり(?)　國信
小山田の苗代水にかはつなく我よをすくる人もなし　師頼
せき流しおきて種まきの苗代の水はなかれもしらぬ　顕季
今そ(?)まきて水にひかるゝ苗代に山田の種を流しそへて　仲実
秋の田のあせまもるらん苗代の種もてまいるけしき哉　俊頼
今はとて山田の苗代水は思(?)ふ心あるとも(?)　師時
志めゆふて山田の苗代かはつ鳴き(?)むら(?)にとも(?)人(?)の　顕仲
ねきさも山田の門田のかは水やまかせぬ苗代水をせき入て　基俊
さなへ(?)のかゝる苗代の水にかはつ鳴なるたねもまた　隆源
小山田の苗代志めてかへる水の種まき人もなき(?)　肥後
いつも(?)苗代もひさしくかれて思ふらん流もあら(?)　紀伊
あれはてゝ志めさへうせぬ小山田は苗代水をひく人もなし　河内

菫菜

菫つむ野への道にいつしかに春の日数の行ぬらん　公実
たつ山のとは(?)の野の(?)花すみれ一夜(?)ねてこそ(?)　匡房

あさひのさく摘て内に草はなる　おもかげ　國信
淺茅生に紫ぬく袖よりも今やし女にすこれもせん　師教
紅なく黒髪のなを乱て淺ぢはなる沢の水　殿重
西の蓬の原の花ゆへのうらに我獨ぬる　後教
わさもあて花の枝をかざみて同のうの草ぬ　伊実
茅の花の袖の内に人うらぬ偽人の恋へよ草は　師時
あさちの山や蒔うの宿の草は雨の水　殿仲
玉の恋の茅花の下の浅ぢはなる沢の水　基後
あもしうの宿の外面の玉の恋の草摘と今の川　隆源
故郷の浅茅の原に恋ぬ草の花ぬ恋つまるや　肥後

草の葉の玉の恋へよはさして紅の色ぬ　紀伊
ぬるとちなるひの恋の草は草はやぬ　河内

杜若

花の月宿ぬ恋ぬ杜の面ぬ　五実
風吹の花のうき沢のうき沢の杜の面ぬ　医房
花の月ぬ恋ぬ杜の面ぬ　盛信
夏の月ぬ恋ぬ杜の面ぬ　師教
玉の恋の花の月池の杜若　殿重
鳴の花の月池の杜若　仲実
玉の恋の花の月池の杜若　後教

はるのゝよりはさくらの枝の色のぬるゝをしかのゆ　師時
ゆきのうちにはるのこゝろはしるらんとあるぬゝゆゑ今ゆきの消ぬ　孫仲
はるのゝのゆきにはるのこゝろはしるらんとあるぬゝゆゑ今ゆきの消ぬ　基俊
はるのゝのゆきにはるのこゝろはしるらんとあるぬゝゆゑ今ゆきの消ぬ　隆源
はるのゝのゆきにはるのこゝろはしるらんとあるぬゝゆゑ今ゆきの消ぬ　肥後
はるのゝのゆきにはるのこゝろはしるらんとあるぬゝゆゑ今ゆきの消ぬ　紀伊
はるのゝのゆきにはるのこゝろはしるらんとあるぬゝゆゑ今ゆきの消ぬ　河内

藤花

ふぢのはなはいとゝ花のゝ色にはるの風にぞ　公實
河よりもなほとをきはるの色のゝ藤の花　匡房

おなじくはるの巻に紀ノのとをきを紀よりはるのうらに藤よりかゝる　國信
松ぞのゝ緑の枝にあり地ゝよりはるの藤のゝ花ゝ　師教
伊吉ノ松にかゝれる藤のゝ花ゝ　孫季
はるのゝ色ゝ浪ゝ藤のゝ花ゝ　仲実
はるのゝ色ゝ浪ゝ藤のゝ花ゝ　後教
はるのゝ色ゝ浪ゝ藤のゝ花ゝ　師時
はるのゝ色ゝ浪ゝ藤のゝ花ゝ　孫仲
はるのゝ色ゝ浪ゝ藤のゝ花ゝ　基後
はるのゝ色ゝ浪ゝ藤のゝ花ゝ　隆源
はるのゝ色ゝ浪ゝ藤のゝ花ゝ　肥後

若（?）咲岸の白浪おくへしもなるは浪より白き汁（?）なり　紀伊
しらさぎはいくらしみ（?）渡し花すれハ逢ふらん池の汀（?）　河内

款冬

我宿の（?）の里井手もみよ折かし八重咲山吹の花　公實
春霞井手の河辺に氣みつついく人かこえん山吹の花　匡房
思ひこそ清瀧川のそこやかれ浪折る時の岸の款冬　國信
蛙なく三内（?）の小河のあさしみ底へ移る岸の山吹　師頼
山吹の花さく里は雲毎に折る人もと咲かかか（?）　顕季
蛙なく池の汀に移せは岸の山吹八重咲きけり　仲實
風吹は浪かかるてふ岸に八重山吹の花（?）　俊頼

玉の井にまたうつしてハ山吹の花こそ宿の盛りなりけれ　師時
絵にかく岸の山吹ふともなきこの白（?）に春（?）もの（?）　顕仲
山吹の花咲かかり河波に井手の里人心うつまし　同（?）　基俊
咲ぬまとハ人をとめの山吹の小河うつしまたつ端　隆源
折ぐるに匂いに流されける井手の渡の山吹の花　肥後
款冬の花うつろいや昔より井手の里にはいなん（?）　紀伊
くちなしの咲そめや岸の山吹（?）　河内

三月盡

ゆく春こそ志らて（?）かへる（?）　公實
流れ（?）も（?）春の（?）惜しみ（?）　匡房

浅みとりや日数ゆくゆくも松かへて春かと宵に鶯はなかむ　［国信］

さもこそハ春ハくれなめ一枚のむしろにしきぬめおりおり　［師頼］

花の数年毎なりと聞けるにまさりて春に春のかなしき　［顕季］

何のさもと聞てきくと知らすや桜ちる山にかへる春かな　［仲実］

我宿をゆくすきて花見る里のこの下も今日そ春は暮ぬる　［俊頼］

桜花山路もこえて見るわか宿よりも春は暮ゆくよ　［師時］

あやなくになくは色ある春とそしらむ鶯のねも惜むらん　［顕仲］

春霞あらしと聞ねて今日ぞ春は今日ハかりめく　［基俊］

花もちりおかへる春のけふにかへりまし八重の桜をおしみても春は暮けり　［隆源］

むハ春のかけをいつしか身にそへて春ハなれなくも暮る春かな　［肥後］

白妙にぬひしうらはもくれなゐのむらさきもちりのこりけり　［紀伊］

分かれぬむしの数よりて一夜春ハ程をまつよ　［河内］

夏

更衣

けふかはる花そめ衣すそかれて春はすきにし花の袂に　［公実］

夏衣花のたもとにぬきかへて春のかたみもとまらさりけり　［匡房］

捨てかたし春はかはれと夏衣いかにかへむと思ひける　［国信］

夏衣ならさきりつゝ夏衣成ぬるとも春のなこりは　［師頼］

いかにとえあらき衣の一重にかさねてゆく夏かな　［顕仲］

折しも花夏衣ぬきかへてしるらん風のさむさは　［仲実］

[illegible]

[illegible] 後鳥羽

[illegible] 師時

[illegible] 邦仲

[illegible] 基俊

[illegible] 隆源

[illegible] 肥後

[illegible] 紀伊

[illegible] 河内

卯花

神垣はくなまさとぬまとぬる白波は卯花さらす布さらすら [illegible] 公實

[illegible] 匡房

[illegible] 國信

[illegible] 師教

[illegible] 邦季

[illegible] 仲実

[illegible] 後鳥羽

[illegible] 師時

[illegible] 邦仲

[illegible] 基俊

[illegible] 隆源

[illegible] 肥後
[illegible] 紀伊
[illegible] 河内

葵

[illegible] 左實
[illegible] 廷房
[illegible] 四六
[illegible] 師朝
[illegible] 弘季
[illegible] 仲実

[illegible] 後朝
[illegible] 師時
[illegible] 弘季
[illegible] 基俊
[illegible] 隆源
[illegible] 肥後
[illegible] 紀伊
[illegible] 河内

郭公

[illegible] 左實

[illegible] 山郭公　迷房
[illegible] 郭公　國信
[illegible] 師孝
[illegible] 孔雀
[illegible] 仲実
[illegible] 後教
[illegible] 師時
[illegible] 孔仲
[illegible] 基俊
[illegible] 隆源

[illegible] 郭公　肥後
[illegible] 紀伊
[illegible] 河内

菖蒲

あやめ草よとの野ふ生ひ初るれ　公實
四月の八日に行くものあやめ草　迷房
なにかはとしらあやめ草　國信
[illegible] 師教
[illegible] 孔雀
[illegible] 仲実

我宿ハ軒のつまかしハさゝれハかけりあやめもしらぬ袂なりけり　俊頼

さらぬまに菖蒲ふく屋と成宿にこよひハあやめふきそへてけり　師時

今日くれとも袂にかくるあやめ草ねなかけれはかをもらさなん　顕仲

世の中に君か淀野にあやめ草ひく今日こそねのたえにける　基俊

今日毎によそにひきせぬねハさけはあやめのねにも絶ぬ袂かな　蓬源

淀ならぬ宿やの妻にあやめ草ひかりくらへの香てならぬ　肥後

あやめ草かゝるぬれ衣の袖ぬらしねもまでこひの道　紀伊

宮軍のひくにかさるあやめ草ちゝにや種の妻となる　河内

早苗

いそけともいなかちとハ早苗もたひぬらん田子のさそへハ朝ことに　公実

早苗とる深田にたてる板橋のわたりのさしもくるしきかな　匡房

夏山も[illegible]早苗とる里人にて[illegible]　国信

かくてきく毎に田子のたもとハ[illegible]祭さる人[illegible]　師頼

わきもこかさゝらハの田井にひきわたし毎にて[illegible]早苗か　顕季

山田かる沢田の早苗取かへて手もわかすそ袖に宿る[illegible]　仲実

とりあへぬ田子の[illegible]ままえを[illegible]　俊頼

五月雨によりこそちかんの里の門田の早苗いそかれや　師時

生てとる早苗もしらす[illegible]縁二葉ふらる　顕仲

雨降て[illegible]色ハ山田の早苗[illegible]社　基俊

残り田はそこのよ[illegible]すなへハかハしそて早苗とらむ　蓬源

田子氏とうお留をこれ[illegible]ひとりわ[illegible]ゆよ[illegible]をしたの　肥後
おれ[illegible]と山田のさ[illegible]元田子氏[illegible]　紀伊
丁番さう田子氏りすそ[illegible]わるひわれ[illegible]　河内

照射

五月山峯[illegible]鹿しゝせよ照射のせるふそ[illegible]　公賢
さう[illegible]さう宮城う原の下[illegible]よもしさ[illegible]　匡房
雲間ゐさ[illegible]月の間氏[illegible]下ハこう[illegible]　四信
照射さう[illegible]さ月さう[illegible]ハ中[illegible]　師時
月やさ山の峯[illegible]　[illegible]
わの[illegible]山さうの[illegible]すそ[illegible]　仲実

照射さう峯山ハ弟さ鹿のわ[illegible]　後松
名[illegible]さ[illegible]の[illegible]小倉の山さ[illegible]　師時
さ月やさみのさう氏尾さや[illegible]　那仲
五月山さう[illegible]ハ我さ[illegible]　基後
照射さ鹿さもわさ[illegible]　隆源
さ月やさ雲う月氏[illegible]　肥後
[illegible]さ[illegible]山のさ[illegible]さ鹿さ行さ[illegible]　紀伊
[illegible]さ[illegible]さ[illegible]ハ[illegible]　河内

六月晦

[illegible]の[illegible]の[illegible]ハ[illegible]　公實

はさしらうの屋の藻やの六月毎にいてはさんの和　廷房
こをあんはあるしあるしの六月毎にあまるとの雲にあるさまし　國信
六月毎にはれの気の紀あこへてはあるとくへさあるもなくへを　師教
久実のあまるとの六月毎にうるはあるまるの新の　教秀
雲のあるくぬりしすきあの六月毎にはくまの池の五葉の　仲実
五月のあはれうへくさ体の六月毎のそしう　後教
いくるまはあるくんの六月毎にあるの深さの橋の　師時
六月毎にあるれるの深のうのやの軒の雨の橋の　教仲
はるく安綱の唐よりの五月毎にはの卯むくて六月毎の　基俊
五月毎にはの数まるとも深さの大江のうれはひるのう　隆源

藻垣苗の浮とは水も方紀六月毎に橋てや海の長綱唐　肥後
五月毎より深の紀もくはの海のうのあさの江もくわやの　紀伊
さるうれはの合の海とも苗の数まるうの山のうもるとの　河内

橋

常毎の花の紀の旬の一本のうまるまの見はめた　公實
六月毎の我の人さはのるとの花橋の雨の歴し　廷房
なのさうーむ橋のうの雨まるまもわるの名のもるる　國信
六月やの吹のうの見の旬ひるの花のうのはれ人の雨の　師教
我常のくれ橋やのうのんの色のよなくの山の名の　教秀
六月毎のうへるむの吹のうの橋はの六月毎のあるのんあるう　仲実

橘の事なるよろこびなのうれしきかぎりなる　俊孝
映えのなかりしかぎりなく　師時
我園の花橘の名られ八金の花のなれるかぎり　弘季
昔見し八人の形見とおもひ出て袖そぼちぬる　基俊
軒ちかく分る橘のうの花を見ぬ袖もなかりけり　隆源
散はてし橘八さらぬ人も思ひ出て　肥後
さ月やこなむ橘のうの花にあやめる人の袖なれ　紀伊
なれし袖橘の匂ひ袖ハなれと　河内

蛍

雨ふりの夜の蛍ハ夜ふかく毎のうれしき　公賢

夏草の露の蛍ハ夜ふかく　延房
草垣の宿ハ蛍ハ夜ふかく　関信
草ぬき清草の蛍ハ夜ふかく　師教
大井川ハ蛍ハ夜ふかく　弘季
ふ川ハ蛍ハ夜ふかく　仲実
我袖ハ蛍ハ夜ふかく　後教
我ハ蛍ハ夜ふかく　師時
我宿の蛍ハ夜ふかく　弘仲
我ハ蛍ハ夜ふかく　基俊
行蛍ハ夜ふかく　隆源
流行の蛍ハ夜ふかく

[illegible]とこゝゆう雲のひろがりて漢人 肥後
吹風すゝへの草ゝ[illegible]れとゝえさこゝぬハ[illegible]成ゝ[illegible] 紀伊
ゝゝよゝとも消ぬ雲ゝかゝ[illegible]ゝ思ハ[illegible]ん 河内

歌遣史

歌者史の下にくゆ[illegible]ハわら[illegible]ゝ[illegible]の里をゝ[illegible] 公賢
すゝ[illegible]ゝ宿に山ハ[illegible]ゝ歌者史ゝ[illegible] 廷房
[illegible]社下にくゆゝ歌者史ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible] 因信
歌者史の烟ゝ[illegible]記文の[illegible]ハ[illegible]の[illegible]ゝ[illegible] 師教
わさもこゝにゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ハ[illegible] 弘重
山[illegible]の宿ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible] 仲実

世中をわくゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible] 俊教
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible] 師時
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible] 弘仲
さゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible] 兵後
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible] 逢源
歌者史ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible] 肥後
[illegible]の男ゝ外ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible] 紀伊
[illegible]ゝ外ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible] 河内

蓮

[illegible]ゝ[illegible]ゝ蓮のゝ人ゝ社人[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible] 五賢

あひ海もはてぬるかなれぬ花そ蓮の花　医房

蓮の花ちるとの浮葉の志ほ風ぬ波の音ハ　國信

女ちる海の池の蓮ハ小つゝけまと花咲よりも　師教

流ゝめてはまはそ詠しる蓮葉つゝの秋ハ常ハ　弘仲

夜ハ池の蓮の露をとゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ　仲文

面ハれいとゝ子の白葉ハ秋ハ　俊教

ゝやゝゝゝ水ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　師時

蓮葉ハ秋ハ白ハ浮の花なれ　弘仲

浮世ハ〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻　基俊

二ゝ〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻　隆源

行ゝ〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻　紀後

ゝゝ池の蓮の花ハ〻〻〻〻〻〻　紀伊

詠人をとゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ蓮葉の〻〻〻〻〻　河内

氷室

夏ハ〻〻〻〻〻氷室ハ〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻　五六六

〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻　延房

君ゝ〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻　國信

立ゝ〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻　師教

夜ハ月も涼ゝ〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻　弘仲

月ゝの〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻　仲資

[illegible]　後頼
[illegible]　師時
[illegible]　弘仲
[illegible]　基後
[illegible]　肥後
[illegible]　紀伊
[illegible]　河内

泉

[illegible]

[illegible]　匡房
[illegible]　國信
[illegible]　師教
[illegible]　[illegible]
[illegible]　仲実
[illegible]　後教
[illegible]　師時
[illegible]　弘仲
[illegible]　基後
[illegible]　[illegible]

立てれハ深草のわたり夜夜燃やす家の屋ゐ也とかん　肥後
詠ともはてもあらいの川ゝ流れ変を忘れ流れ　紀伊
人もなかるるもなかるる生の流れ彼なるとハ云ん　河内

荒和歌

河の瀬よりなる水鶏もろともや沢の神もつとうん　藤原
松陰のとかせの月に鳴くなる中山金の一て鳴ん　医房
京極へ帰ます社の神ゝ社ハ秋ゝ社ハ秋ゝ　國信
わきもとう和ゝ和ゝ社ハ秋ゝ　よ
六月の川そひ柳ゝ流るひさなゝ流れ桜せぬ人ゝ　肥後
八百万神もなるとて嘆ん流ゝ流ゝ桜時　仲実

後和歌

わさ田ゝ流ゝ流ゝ流ゝ流ゝ流ゝ流ゝ流ゝ流ゝ　師時
いもゝ人ゝやさゝ人ゝなるけゝ神ゝ　敦仲
六月のさゝ流ゝ流ゝ流ゝ流ゝ流ゝ流ゝ流ゝ　基後
ゝ年ゝ人ゝなるゝやゝ六月の三度ゝ流ゝ流ゝ　隆源
変ゝ変ゝ変ゝ変ゝ変ゝ変ゝ変ゝ変ゝ変ゝ変ゝ　肥後
ゝ年ゝ桜月ゝ桜ゝ桜ゝ桜ゝ桜ゝ桜ゝ桜ゝ桜ゝ　紀伊
ゝ流ゝ流ゝ流ゝ流ゝ流ゝ流ゝ流ゝ流ゝ流ゝ流ゝ　河内

堀川院百首和歌春上終

鶴

堀川院百首和哥中目録

秋

立秋　七夕　萩　女郎花　薄
荻萱　蘭　萩　鴈　鹿
露　霧　擣　駒迎　月
搗衣　虫　菊　紅葉　九月盡

冬

初冬　時雨　霜　霰　雪

寒蘆　千鳥　氷　水鳥　網代

神楽　鷹狩　炭竈　爐火　除夜

堀川院百首和歌中

稱太郎百首 康和年中

秋

立秋

金葉

やくと荻に吹夕暮の風なれど秋立日社涼しかりけれ　公実

朝ゆきし袖に秋のたつ川せ立ぬまハ出るひなに涼しかりけれ　顕房

紛儀くく夜袖のさむきハ我寝やよるや秋の　國信

新勅撰

昨日にはかはるともなし吹風の音にそ秋ハ空に志らるゝ　師頼

物ことにきし荻よ風の涼しきは秋に成や志ぬらん　顕季

秋立ともいはきの山の山おろしも荻涼しく吹かはるかな　仲実

千とせよる流秡ハ昨日せしかともいはぬ風に秋立けり　俊頼

（蔵書印）

見をさけ萩の上葉より風吹て秋きぬらんと人はよ　師時
吹風の萩の上葉より告行くと日数経れ　俊仲
独ゆく旅じる宿より秋さらねと萩のと葉に秋ぞ　基俊
秋立と人は告ぬる吹風の告よ遅しやと思ふ人の　隆源
物思ふ記秋ぞ告の告ぬ吹風の音に先分る　俊後
秋の月ぞ告ぬ吹不一夜ぞと嘆き音ぞ　紀伊
いつしかと思ふ人より告ぬ風より秋秋ぞ　河内

七夕

天の川あふ瀬ぞ記七夕よ織ぬ衣ぞ　公實
漢川秋を月ぞ告ぬ風と秋と契初ぬ　匡房

織女に衣ぞ裁ぬ衣ぞ　国信
天川渡ぞ記七夕の織ぬ衣ぞ　師教
ひこ星ぞ待ぬ秋の月ぞ　俊季
渡守舟ぞ記七夕の織ぬ衣ぞ　仲実
七夕の織ぬ衣の告ぬ人ぞ　後教
七夕の織ぬ衣の告ぬ人ぞ　師時
ひこ星の待ぬ秋の月ぞ　俊仲
天川渡ぞ記ぬ秋ぞ　基後
ひこ星の待ぬ秋の月ぞ　隆源
七夕の織ぬ衣ぞ　俊後

織女の逢瀬のたとう海まなくむしとりひくいとの絶ぬ和ろう　紀伊

ひさくとあやや七夕に枕よちられゆくこゑん　河内

萩

ひまもなく西萩さきぬ女郎の形ハ道行すらも恨ぬ引ろう　公實

ハ行ぬ鹿の声ゝみ聞て今ハ浮てなられぬ秋萩の花　匠房

秋萩ハ玉ゝに成ぬ名なれと枕めつゝ折ぬ人ハ國信

三鄙ゆゝしわさ川鹿ハ声ゝ鳴とまの山ゝ萩花咲ぬ　師教

萩ゝむ声ゝ山風ゝ吹ぬ秋ハ来ぬ人ハ見ぬ　公實

折ぬ行ゝ人ゝ鹿集ゝ萩の文成ぬ枕せ立ゝ露の玉ゝ　伊賀

秋萩の赤系の露ゝ成ぬ人ゝ見ぬ人ハ恨　後教

所ゝ荒れ行ゝ咲ゝ今ハ文成形の萩ゝ萩ゝ枕ゝ　師教

あさゝ花ゝ見ゝ見ゝ白露ゝ成ぬ秋の萩の枕ゝ　公仲

鹿ゝ鳴ゝ山ゝ山ゝ白ゝ露ゝ成ぬ秋の萩系　基後

綿のやゝ花ゝ見ゝ成ぬ白ゝ露ゝ成ぬ南の萩系　逢源

玉ゝ成ぬ白ゝ露ゝ成ぬ秋の萩ハ　肥後

墨ゝ露ゝ成ぬ山ゝ成ぬ秋風ゝ乱ぬ南の萩系　紀伊

言問ゝ形ゝ成ぬ山ゝ秋ゝ成ぬ白ゝ露ゝ成ぬ人ゝ成ぬ　河内

女郎花

紅ゝ成ぬ山ゝ成ぬ女郎の形ゝ成ぬ一日ゝ枕ゝ成ぬ風ゝ成ぬ　公實

ゝ成ぬ山ゝ成ぬ女郎花ゝ成ぬ　匠房

夕されは侘人の里の女郎花打くてるへきこそならね枯せれ　國信

露しけき野へのちくさの女郎花一えたは折し袖はしほらむ　師頼

秋霧にくれのなかく女郎花秋萩よりは色そうつれる　顕季

いさゝらは今も又らん女郎花あたの名のみそたつ時もなし　仲実

み吉野のかたへの野への女郎花したにたれにか露にぬれつゝ　俊頼

やうらあくその野辺の野に生なちて風にまかへし女郎花　師時

夕霧に立かくれつゝをみなへし夜さへそ翁さひしらん　顕仲

あたし野やしつえぬ秋風にあはれならぬはなき女郎花　基俊

折すてし袖にかゝる白露にぬれし夜こそすら女郎花　隆源

君なくもあれ行宿の女郎花独露けき秋の夕くれ　肥後

女郎花白ふ野へには浅に懐の行へきこの花枯まれ　紀伊

秋の野の露たにしねとも女郎花こゝ野へ毎にうつしそ行　河内

薄

秋風になひくすゝきの花のおもて野へはかり露や色にはふる　公実

花すゝき野に出つくまねく比かそ色ゆかしハとまらさり　匡房

これ薄ことよひ袖ぬ秋風にも羽をたもとの露そみたるゝ　國信

しのすゝきしの浅薄なてもとになひくは風の吹まゝ　師頼

風吹はくまかの薄野に出て露かゝる拂袖とそ見ゆる　顕季

夕暮をいたく鶴なく野の花薄我をまねくとや見ゆらん　仲実

をかの薄穂そとのいとほしくうけて猿まても人をまねくき　俊頼

一ぢゑまもりかはまもりけ花落さこそ秋ハ風の定なりけん　師時
見こしかたに雲ハ出もとしの暮風ハ吹こそ秋ハ過ぬる　肥仲
ちる時ハ人の心の落ぬるをうしとこそ思ひ出けれ　基俊
花落ぬ人ハ神と思ふ人ハ仏ゆゑ秋ハ雪ち秋ハ月ゆゑ　藤原
夕雲の跡ハ花落ぬ人のゆくへ誰をもとめ秋風ハ　肥後
秋風にたなびく雲ハ夕ぐれ誰神ぞとそあやぶまれ　紀伊
花の下ハ雨ふり落ぬ花ぞ散ぬ春ハ　河内

菊萱

秋ぞ来ぬ菊ぞ花なき色ぞ思ハ下葉をとた映ぬ　公実
うゑ初ハ物ぬ秋ぞ来ぬ菊ぞ花なき　定房

野ぐ毎ゆ志ゆ思ハ物ぬ秋ぞ来ぬ　国信
秋くれハ志ひみ色ぞ落ぬ人ハ物ぬ　師教
うつ物ハ物の秋ぞ来ぬ思ひ出ぬ秋の夕言　敦基
ふ風や野風ゆ志ぞ来ぬ　仲実
朝毎ゆ志ぞ来ぬ　後教
さ秋ぞ来ぬ　師教
かくやも我ぞ来ぬ　敦仲
秋ぞ来ぬ草ゆ風ぞ来ぬ　基後
秋風ゆ吹ぞ来ぬ　藤原
へ行く雲も秋ぞ来ぬ　肥後

色うせて吹く秋風そうらやれ竹にはあり　紀伊
さらさらと秋風のみうちうちやよいのうたん　河内

蘭

あさぢさて風うちなびくれぬ葉野毎うち風ぬ　元寶
ぬさうけうくうはいとも志ちらねたひとのあさ　延房
秋の野ふしうくうゆう葉ひとき紀ちう波うん　國信
ぬくもうにおこと芝てうう風秋の野風よなびく　師教
秋の野うに書くに白芝けうまさてうあ合わうしう　教重
野毎にそうろうひとみう葉秋のさうう弱ぬ微　伊宗
ほうけく籠よさうひ芝けうぬまうさ沢うう踏ちう　後教

秋毎にあれさうくみうと芝けうまさうあ芝思ちう　師時
秋風よすうう野うあうさうあ波ともうに秋ぬ　教伸
あさ風の目ぬく吹く葉うう波ともうに秋ぬ　基後
ぬうやうとぬう合に葉野毎にうろうひよう　逢源
能田山麓に白うちけうぬ波さてうあうう書こう　肥後
芝けうぬ波さうあうんなうしう書に白ひ山ぬ　紀伊
秋雲やちちうんぬうう野毎に白に白ぬ物うけうまう　河内

萩

萩さてもゆうう物に出ぬ萩のうち風に山きてうう　公實
あさうぬとぬ毎のうちに波きうもう萩の葉風ちうう　延房

荻の葉のよりてそよめくなれば　國信
さゝぬふ萩の葉ゆ見ゆるなる　師教
山里に吹たゝ寒しさをすゝ　弘仲
萩の葉の葉ゆ見ゆるなる　仲実
萩の葉の葉ゆ見ゆるなる　後教
萩の葉の葉ゆ見ゆるなる　師時
今もなほ秋の萩の葉の葉ゆ　弘仲
秋風のやゝ吹ゆ萩の葉の葉ゆ　基俊
秋風のやゝ吹ゆ萩の葉の葉ゆ　藤原
秋風のやゝ吹ゆ萩の葉の葉ゆ　肥後

萩の葉を吹こす風も若たゝ今は秋を知るなり　紀伊
さゝ分てそよめくなれば萩の葉ゆ人の秋をば　河内

鳴

雲井より鳴のゝ雲ゆ鳴くなれば　公實
秋萩ゆ鳴くなれば初雁の　廷房
雲の戸ゆ鳴くなれば初雁の　國信
秋の野ゆ鳴くなれば初雁の　師教
高ゝ鳴ゆ鳴くなれば初雁の　弘業
ひとつ鳴ゆ鳴くなれば初雁の　仲実
鳴ゆ鳴くなれば初雁の　後教

雲くれなゐの袖てゆく鹿の名残をしき秋の夜　師時
春霞とのゐ行くへ帰る鹿をハいかゝ思ひ出ん　俊仲
宇賀よりめぐりきて初鹿の秋ハいもう使なくねと　基後
羽ぐろ雲とぢめ見る初鹿ハ思ふ色もそ分きこゆる　逢源
初鹿の袖さしつけて雲井ゆく人の心ひと初よ　肥後
ことゝとや撥ひの色ましてなく鹿ハ秋の哀ハ思ひ知れ　紀伊
雲ゐ鹿わくらの山ハ秋の色ゆゑ哀ハ思ひ知れ　河内

鹿

秋くれぬ鹿や海ゑ山ゑ鹿ハ書ふこゑの志けく　公實
かこ山のをしかゝ水ハ鹿ハ書ふ鹿ハ書ふ　延房

書ふと鹿の山ゑ鹿の猟ねをなく苔ゆ　國信
夕月ゆ書ふ引海ゑ鹿の山ゑ鹿ハ書ふ　師教
よもハ山ゑ鹿ハ書ふ書ふ鹿の書ふ　俊季
高砂尾ゑ松ハ書ふ何ハ書ふ鹿の書ふ　仲実
よもすゑ海ゑ山ゑ鹿ハ書ふ鹿ハ書ふ　後教
見月の見ゑ山ゑ鹿ハ書ふ　師時
世中ハ書ふ鹿ハ書ふ海ゑ山ゑ鹿ハ書ふ　俊仲
色ゑ山ゑ鹿ハ書ふ書ふ海ゑ山ゑ鹿ハ書ふ　基後
よハ書ふ書ふ書ふ書ふ書ふ書ふ書ふ書ふ　逢源
三笠山ゑ鹿ハ書ふ書ふ鹿の書ふ書ふ　肥後

あくいなく衰えて世の揮塵の書立てしたるの嗚呼
幸迄の業のてきに嗚呼へくいくよりぬ言葉なりて　河内

落

山くれ風ふきふる白露の玉ぬきちらすきて　公實
月出ぬ山ちかく秋はなん拂ふ成らん秋白露　延房
露ふけさ野へを、ゆくらかきあく鹿のなきぬ　國信
志のめの野露ふかき淺茅生、玉つらぬる音ぬ　師教
風吹ば先ぶちるひく淺茅生にいて垂れん秋の露　別季
白玉ぬ庭よ生ける草を志のびて行るを物露　仲實
如何ぬ物ぬ垂露を苦まして殘ぬ秋ぬ志ぬれ　後教
殘ぬ秋ぬ志ぬれ　紀伊

殘ぬ秋ぬ志ぬれ　師時
小篠原ぬ志ぬ重ぬ白露を秋ぬ殘せぬ玉ぬ殘ぬ　別仲
淺茅生ぬ志ぬ重ぬ白露を笠ぬ玉ぬ思ぬ　長後
玉ぬ成ぬ重ぬ白露ぬ玉ぬ殘ぬ　淺源
白露ぬ人ぬ以ぬ殘ぬ成ぬ花毎ぬ玉ぬ殘ぬ　肥後
月ぬ今ぬ風ぬ吹ぬ市村ぬ露ぬ社ぬ玉ぬ成ぬ　紀伊
朝日ぬ成ぬ小篠ぬ露ぬ玉ぬ殘ぬ　河内

雪

麓ぬ成ぬ河ぬ雪ぬ成ぬ　公實
河ぬ雪ぬ朝ぬ成ぬ河ぬ雪ぬ成ぬ　延房

[illegible]　國信
吉野川渡りもみぢの文言ふやうなる世の浪の音のうつろ　師教
日原の言葉にてみくまのうか言ふらはうる動門の里　厚雪
[illegible]田やうりかうこれ繩[illegible]くるり繰るまきぬ言葉　仲實
[illegible]尾上川の言葉もて消さくらけるぬ世紙　後教
秋言の松山川なるもめれて下もこいつれ言のこえすり　師時
夕言葉[illegible]みちやまとへ今言葉ふり松山人も夜ふかなり　厚雪
あさ山すゆ人へのこひ[illegible]さに山すゆ紙あくさり[illegible]　基後
河言に滅[illegible]もみぢぬ[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]　澄源
言葉あるぬ山へ言こあて[illegible]　肥後

秋言の言へそめうつすにはやらうる[illegible]　紀伊
いふすん[illegible]言ぬ[illegible]　河内

撞

あのさ[illegible]あるもりみ[illegible]撞ハ面新さぬ花[illegible]　厚實
日言葉とたさくさ[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]　匡房
山里のさのあさ[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]　國信
あさ[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]　師頼
[illegible]なさやはるん[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]　厚雪
あさ[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]　仲實
撞[illegible]ぬ言葉をこのうつ[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]　後教

あさくらのもれ潮は南まで八もき秋のはな　師時
秋くれて雲はまつ紅葉をとりわけのこるみねの樫の風　孔仲
四ひとれ雲もこれぬ朝霧に月をまつ　基俊
あさくらはけふのさ衣ぬれぬかこさこの岡の藤なみ　逢源
河ぞこ[ときル]ぬりてかんなづきの日数の数の樫花　肥後
志のめはたれ川ぞ[そル]ひ程の日数の数の[はル]行末　紀伊
ゆきて水の音のあらしに面うけりせぬ樫花　河内

駒迎

逢坂の関の清水にうつる月　五賀
逢坂は関の名高ぬるれしさやかもみくらの月のこまの　逸房

逢坂の関の清水にうつる月　國信
枚村のもりえやもけさ引りつれ駒引わたす逢坂の関　師教
引渡せるのもの[乃糸]ぞ[ぞル]ぬ[ぬル]なくこゆるかの月の駒　教基
逢坂の関は枚村のもりの月のうけうの[のま]　俊実
逢坂の関の清水にうつる月　俊教
昭君の月逢坂の関は出る駒迎さそふ人や来る月　師時
あさひ川こゆるさの駒の逢坂のゆくら出る月宇治[ぞル]　孔仲
引駒の清水や引ぬ逢坂の関の清水の底[そル]ぬ[ぬル]れ　基俊
関の名は鹿花あ[ぞル]ぬ[ぬル]のこゆるかさの駒を引やらん　逢源
あさのゆのこゆるかさの駒を引やらん　肥後

教ちゝ山ぬ君ゝ山あまと川弱ハいくの秋ゝ遥坂の雲　紀伊
遥坂の秋の村雨あまをれやもん田雲　河内

月

さゝやゝなゝ月ゝゝ冴ゝ秋の月ゝ秋ゝ　公實
海ゝもゝゝ波の波ゝ物ゝゝれと庵ゝて月の新ハ　医房
嵐吹いこ海の山れ雲ゝれくなゝ弁の浦ゝまゝゝ月　國信
天の原ゝ雲ゝ月を詠れゝ秋のゝ　師教
山の端ゝいゝゝ月の波ゝ物を詠ゝ我ゝ今ゝゝゝ　俊家
袖ゝもゝ月ゝゝなゝゝ物ゝ月ゝ棹ゝ舟ゝ　仲実
末松の雲欲ゝゝふなゝゝゝゝゝ月のゝゝ　後教

雲のゝゝあゝふ欲ゝゝゝ月ゝ新ゝ　師時
かもめゝゝゝゝの水ハゝゝゝれゝ雲ゝ新ハ　教仲
秋ゝ月園ゝゝゝ月新ゝゝゝゝ山ゝ　長後
いくゝゝゝ月ハゝゝゝれハゝゝゝん更科の山　隆源
月新ハゝゝ今ゝ行ゝ思ゝゝ雨ゝ後ゝゝゝ　成後
久堅ゝ月ゝゝゝ袖ハゝゝ語ゝゝゝゝ　紀伊
おゝゝゝ月ゝ嵐ゝ松ゝゝ月ゝ　河内

情衣

しゝゝゝ嫌ゝゝん唐衣ゝゝゝ　公實
衣ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　医房

[illegible]　國信
[illegible]　師教
[illegible]　孫季
[illegible]　仲実
[illegible]　後教
[illegible]　師時
[illegible]　孫仲
[illegible]　基後
[illegible]　隆源
[illegible]　肥後

[illegible]　紀伊
[illegible]　河内

蟲

[illegible]　公實
[illegible]　延房
[illegible]　國信
[illegible]　師教
[illegible]　孫季
[illegible]　仲実
[illegible]　後教

秋の夜ハ音を鳴むしの数さへ多く秋は山里ねられざりけり　師時

山里の篠原分のかやかやに乱れもあへる虫の声かな　顕仲

蟋蟀わかれのうきハ我もさぞ長き夜すから鳴あかすらん　基俊

秋ふかくなりゆくまゝに虫の音ハ聞ハ夜毎によはる成かな　隆源

あれまさる人来もせぬ古宮に松虫のこゑそあかぬなる　肥後

秋の野ゝ虫の音きけハいとゝしく我物思ひも催されけり　紀伊

露しけみあさぢかはらの花やかをきりぎりす夜毎にすたく虫　河内

菊

さきのよに入舎咲菊の朝毎に露おく花のうつろひぬれ　公実

色はかれ白菊ハわかれし菊の色もむらさきにあまりぬれ　匡房

たれ人も住かりし古宮にゆきてうつろはぬ白菊の花　国信

奥山のそれの庭の菊なれハ流を汲て年ぬはかりぞ　師頼

うすくこくうつろふ菊におく露ハ一色ならぬ玉とこそ見れ　顕季

金谷に入今も咲菊ハ昔より老せぬ秋のかさねかさねら　仲実

こゝのへハ雲に満る白菊ハしかく霜のおきて見る　俊頼

霜枯ぬ菊残れる秋をのこす宿の垣に白玉も見る菊の花　師時

白菊の白かりしは長月に咲そめし夜の菊はなかりけるか　顕仲

谷川の岸にもちる白菊をひろひ星と思ひけるかな　基俊

菊の露にひて行川の谷水の流をのぶよはひのみ　隆源

かきねにさかりのかへる白菊ハ又色まさるかむのかへれハ　肥後

雲れの色も更に雅のこゝろ深くうらこゝろ遠に行きつゝ思ふ人に社雲もうれし　紀伊　河内

紅葉

時雨ふる毎に紅葉すれば雲もうれしと山は錦織　公実
唐山の紅葉は雲にそゝと散るも時雨の紅葉の行方　匡房
雲のゝとゝひろかもる山は紅葉こそ行方すなれ　國信
峯の雲きゝ山の紅葉は樵夫の笠に錦織　師教
淺ゝの風の昌の紅葉を何あるゝに時雨ふる　俊重
白雲のうゝのたひや深ゝ山の昌の紅葉　仲実
立田川たゝとけく神のこゝ紅葉山の紅葉流るゝ　俊教

あさ時雨ゝ山の紅葉は錦織　師時
紅葉すゝ山ゝ山ゝ山

[illegible]

國信

[illegible]

師教

[illegible]

[illegible]

仲實

[illegible]

後教

[illegible]

師時

[illegible]

[illegible]

基後

[illegible]

[illegible]

肥後

[illegible]

紀伊

[illegible]

河内

冬

初冬

[illegible]

公實

[illegible]

医房

[illegible]

國信

[illegible]

師教

[illegible]

[illegible]

仲實

いけるわ杉の名所を詠まゝ　初八本歌し風吹を　後頼
散へくもりや冬ハきぬらん　第五第六第七第八　垂白露乃雪ハ　師時
世ハあしきの松のお葉　変とそ下葉より冬ハきぬる　孔仲
芝やの冬ハきぬるわ　母こ　社柏野　虫の音弱ぬる　基後
冬きくハこと育て初歌　いけのまゝ行　変神のさ　濃深
紅葉も落杉ちて　散　毎そ来ぬ　松ハ　海ハ　成る　肥後
風ちわ冬ハ　ぬ　の　の　の

千載

ちりぢりに人もとひこぬ秋山は時雨ばかりぞ過てゆく　肥後

雨中月時雨はいとまやすき風ふきぬ紅葉ぬ　紀伊

今りし時雨の雲を吹とやあれより宮のうつるらん　河内

霜

ゆふだちのはれ雲かゝる冬ぞらに鴨のうはぎ乱しぬるかな　公實

さゆの尾上の松の枝ぬけ暁ぬけく霜やおくらん　匡房

たまの霜うち掃神さへ冴ぬるかな　國信

いかにせんと朝ぬ行ぬ時ぬて人の涙ぬたまらぬ袖　師頼

投延よもの社やれさもぬものさやく霜の冴ぬ　敦基

年ぬれば袖ぬ降ぬ霜を霜の上ぬ降ぬ　伊尹

俊頼

信濃のゆきのうへぬ行もあれぬて霜ぬ冴ぬ冬ぞ　俊頼

神垣のこゝぬ出ぬ霜ぬ冴ぬ冬ぞ　師時

夜ぬ入ぬ霜や重ぬ冴ぬ夜ぬ冴ぬ　敦仲

樹生ぬ小野ぬ淺茅ぬ霜ぬ白ぬ見ぬ　基俊

初霜ぬ雁の音ぬ聞ぬ　澄源

白ぬ山ぬ朝ぬ行ぬ霜ぬ　肥後

霜ぬ冴ぬ冬ぞ冴ぬ夜ぬ冴ぬ　紀伊

霜ぬ降ぬ野ぬ草ぬ白ぬ見ぬ　河内

霰

ぬさ子ぬ霰ぬ降ぬ夕暮ぬ　冬の夜

ぬさゆぬ霰ぬ降ぬ夕暮ぬ　五實

金屋く葉八門さされた者すゝ和八雲たゝりゝり　定房
あゝまの殘乃すゝやのもゝゝゝへてゆしゝゝ雲ゝ　國信
みゝ路ゝく今も雨ぬ山里よ冬のゝすゝ雲ゝよ　師教
今ゝ月雲ゝ山ゝゝ秋紙を袋よ包むゝゝやんゝん　孔雀
さよ雲ゝ人中月人よ雪せゝや荻のゝれゝよ雲ゝゝゝ　俊賢
意ゝゝゝひゝもゝゝゝ雨ゝ常ゝれ八雲ゝゝゝ八ゝ　後教
ゝ秋雲ゝ雲ゝ山ゝ山雲八雪の道よ稚ゝゝゝゝ　師時
荻の枝の枝やの雪ひゝゝ雲ゝゝ冬ゝゝひゝ　孔仲
枝ゝゝ雲ゝゝ我庭八めゝゝゝゝゝ雲ゝ　基俊
ゝゝゝ今ゝ暁の雲の雲ゝゝひゝゝゝ　藤原

枝ゝゝゝ雲ゝゝ八白ゝゝゝゝゝ　肥後
ゝゝ雪ゝ雲ゝ秋ゝ雲ゝ雲ゝ八ゝ　紀伊
めゝゝゝ白ゝゝゝゝゝゝゝ雲八　河内

雪

雨ゝゝ雪の雪乃ゝ秋ゝゝ雪ゝゝ冬ゝ雪　公實
ゝゝゝ雪ゝ雪ゝ雪ゝ雪ゝ雪ゝ雪ゝ雪ゝ雪ゝ　医房
吉野山雪の川上雪ゝゝ雪ゝ雪ゝ雪ゝ雪ゝ　國信
ゝゝゝ雪ゝ雪ゝゝゝ雪ゝ雪ゝ雪ゝ雪ゝ雪ゝ　師教
志ゝゝ雪の路ゝ雪ゝ雪ゝ雪ゝ雪ゝ雪ゝ雪ゝ　孔雀
踏ゝゝ雪ゝ雪ゝゝゝ雪ゝ雪ゝ雪ゝ雪ゝ雪ゝ　俊賢

[illegible]　後鳥羽

雪ふれハ谷もうづまぬ山もなし
[illegible]　師時

若草まつひろ峯もみぬかとて
[illegible]　敦仲

奥山の松の葉ちのさかり雪
[illegible]　基綱

[illegible]　隆源

[illegible]　[illegible]

白雪のつもりもきえぬれハ若草
[illegible]　紀伊

[illegible]　河内

[illegible]

寄草

雪積の野べの色ふかぬ草なれハ
[illegible]　公実

雪積てくさかくれぬ草なれハ
[illegible]　後鳥羽

雪積の浪のたちかくれぬ草
[illegible]　師時

雪積て縄もかなひぬ草の浦
[illegible]　敦仲

雪積のおのかさ行なこの雪を
[illegible]　基俊

[illegible]　隆源

雪積て[illegible]草の根をこそ
[illegible]　[illegible]

[illegible]　[illegible]

[illegible]　[illegible]

なふた浮葉乃葉ゝ風吹ハたゝ浪の花ゝ　肥後
き方ゝ家おゝやゝ　雲雅波江の芦舟　紀伊
余にゝのゝみゝの芦乃葉を孤ゝかりゝゝ　河内

千鳥

志ゝの浦の松吹風乃さゝ夕浪ゝ　公夏
月影の波ゝ浦を漕行ハゝ　匡房
友ゝ乃ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　國信
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　師教
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　孔雀
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　仲實

あゝ吹ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　後教
大井川ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　師時
風ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　成仲
雪ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　長後
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　成仲
白浪ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　澄源
浦風乃吹上の浜ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　肥後
波ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　紀伊

氷

湯ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　河内

流れて紫つゝ車いくすぢ波のくさひ冬ハ角くせし　匡房
ゝ絶さむゝ河しの氷あつられハ朝霧の水流汲さ少　國信
山里のよゝの風の寒られハ細谷川ゝ氷けり　師教
浪面てゝ岩ハ隠なくゝゝひゝ氷閉ゝゝ山川の水　敦基
志ゝゝ名ハいかの名ゝ泉風さゝてゝゝや池の氷志なり　仲実
ゝゝゝて浦ゝ氷ゝ岩ゝ氷ゝ流れハ氷へて岩ゝ波　後教
山里の谷の下ゝ流ゝゝゝ岩ゝ浪の音ゝ流ゝ　師時
山門の波ゝゝゝ杵音ゝ水ハ風のゝ流音ゝ世ゝて　敦仲
増音ハゝられゝゝゝゝ朝霧ゝ水ハ波なゝ行　基俊
氷ゝゝゝ閉ゝゝゝ日ゝゝゝゝ波ゝ　隆源

冬ゝ波ゝ波やゝゝゝゝゝゝゝ高波ゝゝ岩間の　肥後
奥山のゝゝゝゝゝゝゝゝゝ落ゝ波の音ゝ　紀伊
ゝゝにいゝゝ波ゝゝゝゝゝゝ風乃水　河内

水鳥

朝戸明ゝ猶新みる池ゝゝゝゝゝ　公實
ゝゝゝの面ゝの床ゝゝ　匡房
氷ゝゝゝゝゝ汀のゝゝ波ゝ　國信
池ゝゝゝゝゝ響の羽風ハ岸ゝの氷ゝ波ゝ　師頼
ゝゝ波ゝゝ氷ゝ波ゝ羽音の波ゝ　敦基
ゝゝゝゝゝゝゝゝ羽風乃ゝ　仲実

忘れ草あり　はつかにあさりする鴨おきも無流て　後頼
川せのさゝなみのゆれてうゝ鴨の羽の霜や　師時
水鳥の霜のさゝ衣重さくさゆるまもなくなる　孫仲
白雲のたちさゝはされとあるはまつのかいやとけるあり　基俊
浦山一面の武みてつも有ものを　隆源
池水に芦れくれ行ゆる水鳥の羽風は波やたさく　肥後
池水のうゝ氷のうゝ鴨のつゝひのさゝなれらん　紀伊
あるのうゝ乃なきのうゝ浪の花の散よねん　河内

細代

武士
もゝくはの年のうゝ幾を忘れぬ細代や弦人　公実

さゝ波やをしの海のあり乃木沢浪よりもうゝひをはうゝ　達房
田上の澤ゝ乃ゝ乃ゝ見へつゝ我ゆきへすゝるゝつゝか　國信
細代の木沢郭ゝ田上のその杜に春ゝ散し　師頼
舞少の音ゝ海ゝ氷魚の原細代のゝ城ゝ　孫季
川吹ハ田上川のゝ乃木ゝ寒の彩ゝ乃ゝ幾へゝゝ　仲実
はゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ細代の木葉沢ゝ見幾へゝゝ　後教
氷魚乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ　師時
ゝゝ田上ゝゝ田上川のゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ　孫仲
山川ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ　基俊
白浪のもてあそぶゝゝ細代ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ　隆源

ぶ夏のよろ川瀬ゝえゆる細代ゆ八ちゝ白浪の折ゝや立つ　肥後
細代ゆに浪のゝくやさわ〻きあや愛り紙ゝ蒔ゝ　紀伊
波もなく白波ゝ細代ゆを沙夏のゝゝゝやのうゝ　河内

神楽

天とつる神のゆをゝゝとゝやゝ庭火の煙ゝとみゆゝん　公実
曙の星ゝへゝゝぬ榊ゝの葉ゝ打ち掛ゝ袖のまゝ〻れ　定房
榊とゆゝゝゝあ折ゝ冬のよゝ夏のいんごゝゝぬ八ゝ　國信
千早振神のゆゝを庭火多くゝと育れ神ゝゝ付ゝゝめ　師教
強葉とる榊葉ゝ打ゝ葉のゝゝけゝゝめゝゝ神のゆゝも　敦雅
庭火多くゝ天の岩戸神ゝゝ振ゝ振ゝ榊ゝ　侍従

うゝゝみゝ神ゝゝれゝゝそのゝれゝゝもの文つゝ庭火白ゝ文　後鳥
ゆゝゝ付ゝゝゝ社の神ゝゝゝ榊あゝ舞の面白ゝ　師時
ちゝゝゝゝゝゝゝゝの榊ゝゝれゝゝゝゝゝ八ゝ天の岩ゝ　敦仲
ゝ榊ゝゝゝゝ榊葉ゝ垂ゝ葉ゝゝゝゝゝゝゝゝ　基俊
庭火の庭火の光あゝゝゝゝゝゝゝゝ　滝源
榊葉やゝゝゝの榊ゝ榊ゝゝゝゝゝゝゝ　肥後
榊葉ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　紀伊
ゝゝゝ庭火のまゝゝゝ榊葉ゝ面白ゝゝ神ゝ乃ゝ　河内

鷹狩

狩ゝゝゝゝゝゝ羽の書ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　公実

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]の煙なるらんと世人思ひうたがふ　後鳥羽

すみがまの煙は人の歌山人雲ゐの雲とまがふらん　師時

さびしさは冬社まされたきものや焼炭の煙の行方　教仲

[illegible]新[illegible]とたく冬くれなゐたのもしきふるき雪　基家

[illegible]の[illegible]やわくらんの歌山人煙のあるいとたのもしく　隆源

みやまぎ[illegible]焼きそめ[illegible]ところ[illegible]て煙あるせぬ[illegible]の里　師行

[illegible]の冬のそれ[illegible]ますに[illegible]炭[illegible]煙さまして　紀俊

[illegible]の浦に[illegible]やくあまの[illegible]と冬そまよひの小舟　[illegible]　河内

炮火

[illegible]の下にうるかひやるる清[illegible]ふ[illegible]の[illegible]初[illegible]　公実

やはり知らぬ[illegible]さかきなるる[illegible]　[illegible]

[illegible]ことも[illegible]紀[illegible]を[illegible]冬[illegible]初[illegible]　國信

[illegible]の下にうるる[illegible]　師教

[illegible]に[illegible]ぬ[illegible]　教基

[illegible]ことも[illegible]うる[illegible]　[illegible]

いかるもん[illegible]の下なる[illegible]の[illegible]　[illegible]

[illegible]の[illegible]　[illegible]

[illegible]　師時

[illegible]の[illegible]　教仲

[illegible]　基俊

[illegible]　隆源

[illegible] 肥後
[illegible] 紀伊
[illegible] 河内

除夜

あすよりは人生の秋といふべきことを汁粉に公家人
吉野門をたゝくすゝ掃きの白髪の新年の言葉の師匠 遠寄
何事を祈るともなく門の前をゆくもうつるかな 國信
はるかくてしてあるよなれば年月は我身のうえを知らず 師朱
門出ぬいとうとそうそうとそれとなく言はるゝこゝろけわ 孤雲
[illegible]と示明たいのんかくりけとなる身冬もとあるの仲実

ことあるのはかりなれよ拙者はもうこゝろ 後教
ゆくれくまこゝは藤よ就はるもとあるとあるは 師時
月あり十月ありまわて二月の為そうなる 敬仲
いつくるはるとあるとあるは人あるこゝ 基俊
みりもちひとちはるとあるこゝ 隆房
ものあるこゝは我身の老となる程と何なあるまを 肥後
はるかつや我世を祈るくれ 紀伊
つなるは滅さんとあるとあるとて真義後 河内

御門院百首和哥下目録

戀

初戀　公不知戀　不會戀　物逢戀　後朝戀

會不逢戀　祈戀　思　片思　恨

雜

曉　松　竹　苔　鶴

山　河　路　関　橋

海路　旅　別
懷舊　夢　無常　祝　述懷

山家　田家

堀川院百首和哥下

恋

初恋

[illegible]　公實

[illegible]　匡房

[illegible]　國信

[illegible]　師頼

[illegible]　敦家

[illegible]　仲實

[illegible]　後教

[illegible]

[illegible] 師時
[illegible] 孝仲
[illegible] 基後
[illegible] 隆源
[illegible] 肥後
[illegible] 紀伊
[illegible] 河内

人不知恋

[illegible]

[illegible] 國信
[illegible] 師教
[illegible] 孝孝
[illegible] 仲実
[illegible] 後教
[illegible] 師時
[illegible] 孝仲
[illegible] 基後
[illegible] 隆源
[illegible] 肥後

金れぬ恋よ月分をもえそめけぬ　紀伊
ちりもしぬなれ枝かはやあひの星のけぶり　河内

不會恋

ひはりくもとこうやあふ夜門ひとつぬまに神ならぬ　公実
ゆふすての神もこの恋のくれぬ涙のうきぬ　逸房
命をも一天照神の宮柏をくうもてあぬ恋　國信
ふるあひのうちのこのうれしせひあてやうあり名残や　師教
我恋に吉野しめの見なれやあひ人もあめ　新雪
あらたく立河内もうあを逢よりけせぬ金　仲實
恋事ハうれのたあ逢ふのいけあやぬれつく　後教

うたんむよあうあ恋うよくのうれくれ新のうくにたれら　師時
鶴末の命の数ハたて世ると安事のいきうあ　肥仲
第末のあうあ相ひへまくとうあるあ恋うくあ世ハ　基後
雲あまもこなきこ世よあ事をいりとまくく恋　塗源
雅面よこのこやても恋の我の我そはくもう　肥後
後よあうて多う恋ものうれ柏ひう神ハ義ハうん　紀伊
見面ハ月よくく男なうるこにたとくれとあるあ　河内

初逢恋

八まきて鶴のひの我ひとを逢くくうて初ていうけあう　公実
ふくくハよ鶴のひのとけぬれてうるれのハうの　逸房

うれはしてたてせんと思ひ給へ侍るなり　國信
さるべきことわりなるとは私ひとりのなげきにもあらぬ御ん　師教
揚方ことにみくのこえをもとこそ思ひ給へ侍るなれ　弘重
武蔵殿は我ものゆゑ若君をもとひそめ給へ　仲実
あのやうなるこれひのうらみをもとひ給へ　後教
いとせ〻は我ものんけうもさひのうらみ君よかくし　師時
下ひもの打とけめ給へ侍ひそめのとこ寄て衣うらみる　弘仲
こ語江の入えよ打ち寄の人をもわひ給へ　基後
東海ひとの八語まひらと寄そこゆう達後の　隆源
いかゝ打とこ寄ひんとこもひとりけつ中殿　肥後

清盛ときに子ひとりあり姫御前と申す　紀伊
いまゝ人書の下ゝうらとけ名を流ん事ゝ思ひ給へ　河内

後朝恋

なくこゑるうこ社なられあさこうゆうるれと朝の恋　公實
紙上のおりをとるれこうるれ梅あけつゝ春に芳を　匡房
雪ゝ打ゝ花あさえのいくゝ乃ちとゝ風うゝ雨ゝ　國信
降ゝの朝霧ちけきこ衣千ゝ乃ゝ風まゝへきゝ社　師教
恋ゝに我ゝ身そたゝく濡ゝ人きたゝ小朝霧の打きて　弘重
乃ゝこのゝふゝ乃せ花布ゝ乃ゝ　仲実
問ゝ乃ゝ花をさ花とゝ乃ゝ乃ゝ　後教

わきもこがあかつき露のなごりをば　師時
袖つゝむ衣ハ霧とうひて言まつ神垣のまちぶん　弘仲
と朝さてはなをやあまのかるもの　基俊
いかのまに露ゝなるらん白雲のおきくるくるの　逢源
柏河のせゝの白波ゝのあけぬるあけぬ　肥後
あひくるの朝の窓ゝ　紀伊
明日まてかけのこゝ　河内

逢不逢恋

行末ぬるわかをこゝろ秋の夜の　公實
ちぎりをこゝにかたゝ月はせ　匡房
あひくるあの恋ゝ　國信
今宵ゝ恋ゝ　師教
神ゝ　弘業
又いとゝ　仲実
山彦の　後教
ちのゝ　師時
さかゝ　弘仲
留行のあかあさ　基俊
人ゝ　逢源
神ゝ　肥後

[illegible]　紀伊
[illegible]　河内

[illegible]

[illegible]　公賢
[illegible]　宣房
[illegible]　國信
[illegible]　師教
[illegible]　[illegible]
[illegible]　仲実
[illegible]　後教

[illegible]　師時
[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]

[illegible]

國信

[illegible]

師教

[illegible]

[illegible]

仲實

[illegible]

後教

[illegible]

師時

[illegible]

[illegible]

[illegible]

志ぬ計なれども思ひ情あさからぬ人の
いまをかぎりとなりて我のみ猶恋しく
あはれなるもわすれぬ面影の忘れがたく
なれしをしたふまゝに何思ひ
心ばせもわすれぬ人をたゞうらのみたゝ
涙にしをれぬ袖へ行思ひまさるあはれ
我なからもとかくもいとかなしき思ひ人を忘んと

師時　別仲　基後　澄源　肥後　紀伊　河内

恨

かたをもれかなしくこゝの葛の恨ものこる秋ぞ
さびしくもあはれまのこゝろ思やるかなしき夢の

公實　定房

恨ばかりひたすらわすれて人をうらみ
ぬ人をうらみ果ぬるかなしさ
思ひくるしみもたゝ恨おれども
たゝ人こゝろ思ひ
何事ぞこのひとたゝ
さこゝろや
思ひ
思ひ
人をうらみぬうらみ
うらみ
南のかたの

國信　師教　教子　仲実　後教　師時　別仲　基後　澄源　肥後

我うくひすいまだ芦の葉原にそうみられず　紀伊
ゆきとふるあるくまのうらみくのこもるあり　河内

雜

曉

曉の風ひとしきりはげしく雨のこゑうちそそぐ　公實
ほとゝぎすなくあしたの宿のもしらぬ山路　宣房
山路はしらぬ白露の曉むさぶ草の末　國信
苔莚旅寐（ほとゝぎす）の公なれよ有明の月もくまなきよなれば　師頼
山里のあけぬのあれぬ世ぞ哀なる有明の月そやとれば　聖子
もしの有明の月ぞ羽うく曉の夢さめこゑ　仲實

明ぬなりもしの月まもれなりうの衣あり門福ん行ゆ新ちゆさ　後拾
雲のかく曉ゆくに野ゆ山へて薪ゆくとゆ山へそゆ　師時
夢ぬ我曉のゆ夢に夢さあくく空にゆあ宿ゆ行ゆ　孫仲
明ぬなりゆ曉のゆうゆうゆうゆ我ゆ行ゆ　基俊
曉ゆ明ゆ行ゆ我ゆ行ゆ前ゆ曉ゆ行ゆ　藤原
さく柳の曉ゆうゆ曉ゆ人ゆ多ゆ名ゆ行ゆ　肥後
夏ゆ事ゆ夏ゆの月の曉ゆ人ゆ事ゆ夏ゆ曉ゆ夏ゆ　紀伊
明ぬなりゆ夕ゆけゆ名ゆ名ゆ名ゆ行ゆ曉ゆ夕ゆ　河内

松

埋ゆ松ゆ山ゆの名ゆ山ゆ名ゆ浦ゆ名ゆ山ゆ名ゆ　吉光　公實

筑波根や白雲かゝる松山の千とせの新月さもさやけき　　匡房

殺ぬるこゝろもえさらのゐる松なれとこゝろ八雲たゝてやん　　國信

武隈の雪はみなとけあゝ玉ぬきとゝとゝてゝ　　師教

雪のうゑゝこゝろ紀の岩ぬ松いくよさみとる長の海　　敦光

吹てゝ中ゝ八ゝ岩ゝ岩ゝこゝろ紀ゝ山の辰の雪家　　仲實

みこゝゝ物ゝに松ゝ松の雪の世ゝゝくゝゝ世ゝ　　後教

雪てゝ松の木ゝけゝゝゝゝ雪ゝ山ゝ　　師時

敦ゝゝゝいゝゝゝの雪ゝゝゝの松ゝ物ゝ　　敦仲

高木月ゝゝゝゝ松ゝ元八雪のゝゝゝ老ゝゝ　　善俊

冬ゝゝゝ後ゝゝゝゝゝゝゝ松の雪八　　隆源

常盤木の緑ハなゝてゝゝゝゝゝと凡のゝゝゝ松ゝゝゝ　　肥後

いゝゝ世と数ゝゝゝ風ゝ雪紀の神ゝゝゝゝ松の梢ハ　　紀伊

みゝゝゝんゝゝけゝ岩代の松やあれハゝゝゝん　　河内

竹

くれ竹ハ冬ゝゝてゝ月ゝ代ゝゝゝゝゝ　　公實

海ゝゝゝいゝゝゝゝの梅ハ文ゝ一面ゝゝ　　匡房

本松ゝのゝゝ竹ゝゝゝゝゝゝゝ　　國信

ゝゝゝゝ生ゝゝ弁の松ゝけゝゝゝゝ世の新ハ　　師賴

冬ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ竹のゝゝ雪ハ　　敦家

貴ゝのゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　　仲實

[illegible]行のうきみ[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]
[illegible]れ[illegible]
[illegible]
[illegible]

奥山の岩ねに松の陰ふかみ　肥後
ちるは波今たちかへる君ゆへ　紀伊
ふるとはなくてうとゆる根ゝさて　河内

霧

霧の中に人ぞ知らぬ朝ぼらけ　公実
波ゆゑなるなるとぞ思ふ川ハ浪　師時
縄をいくたの舟や入めん雄波の川の流ゆ　國信
雄波ゝ川ゝ風ゝ吹ゝ　師教
潮風ゝ波ゝ吹ゝ　教長
古ゝを思ふ波ゝ来ゝ　仲實

細川ゝ流ゝ波の渡ゝ　後教
君ゝ代ゝの為ゝ　師時
朝ゝ　教仲
白ゝ雪ゝ　基後
波ゝ　隆源
君ゝ代ゝの為ゝ　肥後
天の原ゝ　紀伊
千年ゝ　河内

山

峰ゝ　公實

定車おちくぼ高に見る雲の山のうるさ雲よ　定房
濃霧霧て濃う降ます　國信
見わく雲れの雲ぞうち挿ひ　師教
峯こそ紅葉の山のうつろ人　孫季
夕消るさ夜夕雲に濃八雲よう降をうせの山　伊實
いく程おくて久今見る郎のこと　後頼
優婆寒風おくるひまうら　師時
高雲やうちぬさうひよ高りく雲弁よこゆる鏡陸　孫
白雲の弱ます人ゆるる島おうもの雲れ山の嶺　基後
高羽玉の黒うこ山のいくき八雲うつ山はうやうん　逢源

白雲のうち高の稲とうう行八いくよ雲れ蓑ようう清　肥後
ひさ今くゆうひせんとやうもち秋八雲れ山ようん　紀伊
見極の山の祈よ久ふうさうう神の雲の行八生ぶ　河内

河

みかの分紅やこ雲あけ久ある陸祝ふ雲れ波の　公実
とうやひ八ひのうま川弱さあ山らの雲れ新宮行　定房
わさうへ雲ひ雲ふ流のうやう風れ山ひ雲せうう川ふ　國信
角田門の雲こ流ふ白波の立角うき人ち祝ふね　師教
舟もなく雲波高さうひ川ふ角うる月人風は　孫季
雲あうう雲みうさ行うみ川の清さ瀬流の高や　仲実

大井川みなくちうみく岩渕よりもし我の色うるはしのや　後拾
遺　師時
はるの月新の宮ゝ月はるはしもそ夏にいへ　孝
名所おつくわつく海河を流れん恋ゆゑの新やうの　孝仲
まとの川岸ゝ水の岩ゝ風ゝ打人の浪そ花咲　基後
吉野川ゝ大川ゝ乃ゝそのひ無いかも文ゝ孫ゝ　隆源
渕瀬もそ、ゝもちゝぬゝやゝの瀬ゝ流ゝ川の　恋後
名ゝよかゝく吉ゝ小ゝ文ゝ吉ゝ野ゝ川ゝ　紀伊
いけさを流れ乃ゝ打人の新やゝ　河内

野

雲林の野原の清ゝ詠ゝ文ゝ道のゝ　公実

ゝ
ゝ
ゝ

我せこう吹きよのくさ宿わがをのよ鶯にあり夢くさて　肥後
為ゆえ　おかゆうかぜ　秋の夜ハ夢ハ夢ゆ　紀伊
ゆゑ　の　ゆ　ゆ　ゆ

高木の板も若しもを計れよりわ爰世路なんせさ波　定房
うち波をとの板橋形よりわ波れなもこのこハいかせん　國信
東路のたまゆの橋の橋浪ハ橋ともきたてり　師教
東路乃佐のく船橋形ぬるもいまさらめかりはうや　厳子
きさ波ゆく若しまよりわを分めけれよ波を掛　仲実
朝夕ふよりの橋だれハきさ人路くもち波さふ　後教
波ちんちち松すれ河書のたれもこへもちらし　師時
橋よりわ人もよ波機のこ為ち路橋　敦仲
我ハ業し妹ろ逢をくれいめしの橋をいくまし　基後
ちよ事橋形ふうち紀つけく書の人ハ位まし　澄源

さくふのくもてゆこゆハ八橋をいなり人ハ海りそあんん　肥後
波里ゆや波ろ紀ハ信濃ちり本宮法の橋ハ　紀伊
陸奥の形ふの橋も中路くあみまよ人ハうら　河内

海路

うここやの沖ハ怪まみるこれいめてよけれ　公実
大壁やあらのせの吹ろまのちくれ風ふん　定房
浪の形るつこう湯をいつ舟ちや潟ちを世ちき　國信
あらち潟江過ち機ふあこ千ち為ーを舟考世路　師教
いなち波路越をてゆめん都のこれ雲ちれ　厳子
越の海乃わゆ乃ハ十なこの浦ふ舟ハこめふ波枕　仲実

ことこそあるなれ人のようなる事毋のきらけまるやうに
ものを滴つるかとこそ漕舟人員のをとを高く
ひきあげ由良の三渡某舟の漕れ行ふ歌をやうに
月数の三方九時八絃尺渡八幡也もろひの舟出せよ去
ともとかう大時風おろ風也ろ船舟八今ア出人貴
漕舟の沈もたくれとも波やく煙やたのもろ人ゆん
船頭てこれらもわろ漢風よ流せ立ぬまの橋
風吹八重ものもなきさ風く漕風れぬあまの泉

旅

都出くいく日とこまよ落ちひうるての森よ行ちん公実

仲秋
師時
敦仲
基俊
逢源

あさもぬ旅の夜ア明ろ出よろ野原の茶人よひて
出りりしやの秋ア行て寄ア寄ろ
さ中よ人ハ人ろ月ちのく秋ア
ア出ぬ人の行ア行ろやひろわ
いくねぬ白ア出ア行ろ海ア
ア多いろの山よ旅ア
旅の板ア出ぬ月ア
さ出ろる我ア月ア出ア
初月のの月ア旅ア海の
ア多ぬ紀ア出ア出ア

匡房
國信
師教
敦季
仲実
後教
師時
敦仲
基俊
逢源

[illegible] 肥後
道を[illegible]ちけやめ行[illegible]し 紀伊
自[illegible]大宮を社家[illegible]れ 河内

別

[illegible] 國信
[illegible] 師教
唐衣袖の別[illegible] 敬孝
[illegible] 仲実

[illegible] 後教
[illegible] 師時
[illegible] 敬仲
[illegible] 基俊
[illegible] 隆源
[illegible] 肥後
[illegible] 紀伊
[illegible] 河内

山家

[illegible] 公実

山里はまれの御客秋深く風冷まし　逢坂
音こそあれ霧のこもれる山里は　國信
山里は寝覚の床のさびしさに　師教
月を待つ夜ぞ秋は長き　敦季
月をまつ山里は葉の間もうしやすし　仲実
木末のうつるこの山里は蔦のなかに高き松に　後教
雲ゐ深山ぢもねのあれや月の宿を見せ　師時
秋川の水に蘭は咲きけりさこそ先の面のおもかげ　敦仲
嵐吹く山陰隠家すむ山里にいでて月の影ぞうれしき　基俊
雲ゐ出でし月の人もなき山里は秋よりよりは秋ぞ悲しき　藤原

山里の柴折くるほど空よりは　肥後
問人もなし秋山里の夕暮は人のまに帰りこそまれ　紀伊
木の葉の散るのみ山つもるなり柴の折り戸は雪に閉ぢられ　河内

田家

よもぎ刈りのこる山田は門田にて常もとめ家を信わ　公実
稲雀の光りもあるとなまて留るやまの秋のとりの　逢房
かこひるさ柴の色分わるあれ秋のほるさ　國信
我せこは柴うわあけと塩をあるみつ田の菴八月そもり　師教
小山田の稲さの家よりもちけ人めもる多公ろうろわ　敦季
秋田の刈りもれひさかたへられと稲負鳥の夜なく　仲宣

秋の田のほのぬしやたれ問ふ里を雲ゐにかゝる山のはの月　後法師時仲

しれくるる田中の宿のいなむしろ我ひとりぬる夜さびしこそ　前右兵衛佐

我うくる田のひこばえにさしてはかつ負ぬるものちやさびしん　別仲

こゝろ荒れ面はあらしの我宿のいとをもつかぬ小田と苅こそ　基俊

宿もせに朝夕いとはぬ秋ぞとてうらぶれてうゆくへかな　藤原

いなむしろの外面成ぬる秋の夜に田の稲妻ぞ光る　肌後

うたゝねのとゆめ一宿にひとすがらくさ枕守こそ　紀伊

小山田の稲ぬ山雀を打拂ひしらをあり一夜寒ぬ　河内

懐舊

れの忘の杉一本の山人のはるかさ世はなれ海ゆ　公実

[illegible]の下ふるまとゝ[illegible]の花のゆゝ忘れこそ利　匡房

ゆゝ世世のこゝろ[illegible]なるまゝの春ぞ　國信

徒よ[illegible]月日をうゝ[illegible]ゆ[illegible]ぞ[illegible]ゆ[illegible]　師教

赤の代のゆゝ[illegible]ゆ[illegible]の[illegible]　聚季

杉よりの是やいつこの杉ぞあれひとり[illegible]　仲実

[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]　後教

[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ぞ[illegible]　師時

ゆゝ世世ゆゝ[illegible]ぞ[illegible]ぬ[illegible]ぞ[illegible]　別仲

老らくの新[illegible]ぞ[illegible]ぞ[illegible]ぞ[illegible]　基後

み一宿の庭ハ淺茅沢[illegible]の[illegible]　隆源

日にうつりかはるこの世にはゆるぎなきものはなし
我人ともに常なる古都をいまも忘れぬ
月はいにしへの光にあらねどもかたぶくまでの
名残惜しまれやはする　河内

夢

世事はかりのごとし夢の中にも夢を重ねる
百年花は常にあらずとぞ世はてしの夢やうつつ
世はうきまくらの夢なりわせ月ものあはれ
ひとりぬる窓の夜の月をうつす
うき物の夢ぬるわせは別れ
夢の中人をうしなふ世もとぶらふ
公実　医房　國信　師教　俊秀　伊実

さくらのはなにわかれをおもふ夢のうちにすれ
ふるやとり飛のはるをしたふ
時人のなきうわかれふるまくらの
よひのまの花さくあんうつ
秋のもとにのせてはつ
ちりぬるこのてなりてなく
何よりも秋のうきをなくあ
はるかにはるかにうんさあ
夢　師時　孔仲　基俊　隆源　能俊　紀伊　河内

無常

宮殿のうつろふ色世にはるかにうつる
公実

世の中をいかにものうきとおもへばか
なしかりける世をしらでとすみよしの
はるのあさぢはつかなれたるものとは
なしかりけるつゆ露計なる命をたのみ
つゝ人をうけるかな　肥後
世世をへつゝやあらんれ岩代の
松はそのよりそれる松はなし　伊賀
花をたのみうゑ初る清水哉
けるさよりもなし　後鳥
うけ方のもとゝ定めハつゝ
山の端を入る月を見ては我もさそ
世世ぞ恋しかりける　師時
世世ぞ恋しかりける　弘仲
玉露ハ我ゝ身をとゝ
ひとやとゝかき世ぞ
もいとゝ　逢源

清ぬまもしらぬ人をそ思ふ　肥後
花の盛ぞ思ふ木の葉をみるもそ
ふるさとも世世のとゝふハ
ひとあすとゝぬ
わかれ哀　河内

祝

君ゝ代の数よりハなかしかりしこの渡のまゝ
松山のなみこしをみるもの浪や
松ゝ代をこゝろ行末の久しき代をハ君ゝ
君ゝ代ハ千年の浦ゝ落もすゝ
君ゝ為ゆゝこの積ぞ
いさなゝこのたゝとの

君が代の松の上葉に重なりて百万のうぐひす　後鳥羽

にごりぬる色のゆかしき君が代は　師時

庭さらさらなれ落ちぬさゝの門の影さゆる秋の夜　仲

奥山のやまぶきの花君が代にいく度咲かん　基俊

君がえんとうひの千歳をうぐひす八百万代をかぞへん　澄源

君が代は動る門の庭さらさらと音もしぬべき新竹　肥後

何事につけてもくらぶ君が代のまつ浪わかる　紀伊

枝ちかきさ白ゆ花君が代にいくとりかはむひとへ衣　河内

述懐

何をして春をひさんと朝毎に浪の影をうけとるあり　公実

門を閉ぢ草葉の露を払ひけるかく道のよりぬれとそ　道房

月をそしひかしきそこにあすとまて君がゆく世はいと遠　國信

身のうきはいとゆゑ今約束の事そなりき　師教

かなやこは我身越の白山のかしらの雪のふる時も　肥後

ゆきをゆゑ頼うわりと記けるの世成むさいらの雲　仲実

いるこれを我なりしこの頃かくと今書と猶ちのうん　師時

義を記へ人れ人とくとも我世事成いてやうの　肥後

唐土を三月人も我とくこ成まてあ歌をけ　基後

わさうけきを代は歌くわひるの絵れせあ身せん　澄源

身ひるく人数なつあ身のうこ成ちひも志ちうこを歌ち　肥後

いくあらわすくしきあらん春秋のよろしろ成るつろつ紀伊
ひかりにしたがひて春秋色わかぬ老をとどめて人をまもれる 河門

[illegible]
[illegible]れと
なる事ハ
なるれとも
[illegible]れく
あけとも
[illegible]さに

世の常と
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

後頼

[illegible]
[illegible]れ
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

くちはてぬ
あるなる
さうの
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

文哥

世中 [illegible]

[illegible]院百首和哥下終

諚人

正二位行權大納言兼東宮大夫藤原朝臣公實

正二位行權中納言大江朝臣廷房

正二位行權中納言源朝臣國信

參議正三位行右兵衛督兼備中權守源朝臣師頼

從二位行修理大夫藤原朝臣季子

正四位下行越前守兼中宮權大進藤原朝臣仲實

從四位上行木工頭源朝臣俊頼

従四位上行左近衛權中將兼備中權介源朝臣師時

散位従四位下藤原朝臣顕仲

散位従五位上藤原朝臣基俊

阿闍梨傳燈大法師隆源

肥後　皇后宮女房

紀伊　祐子内親王女房

河内　俊子内親王女房

歌曰

敷妙雲與虎嘯風別

今也聖德遍于海仁恩及于異域治

教体而日月活澄世豈見人義民安枕森

山徳恩養海白恩沉獻財祿彩祭幽靈

襲和歌大興治庶人荷簀負粮三学

爲業之士盡教而下潤隱於小虎嘯之習

於水流恩失祝燥於乾平累代勅撰

歌集廣播于梓之流布於世爲尊有

猶云衝者一日携書来曰此河流
こ百年也彩掉之信君子分作濁辯猶
澠余素学佛教之心識俗典況於和
年治乱盛衰邪辯心憂已被求者
ら考訂之如之何添刪以後君子
是之審焉寅四月望　雲臺大原敬

御書物屋　出雲寺和泉掾

蘆文庫

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]